

ふくしまYMCA設立趣意書

1. はじめに

2011年3月に発生した福島第一原子力発電事故は、内外に対して大きな波紋を投げかけました。そして、今日まで私たち日本のYMCA並びにワイズメンズクラブは福島に対する様々な支援活動を行い、学びの場を設けてきました。そして、事故発生から14年の歳月が経過しました。時が流れるにつれ社会全般において福島に対する関心が薄れてきているのが現状です。

こうした中、1996年に採択された「日本YMCA原則」に基づき、この地に新たに「YMCA」を設立し、2022年に採択された「世界YMCA Vision2030」が示す世界的協働の中で、福島の地にある課題と向き合い、地元の人々と全国・全世界の人々とをつなぎ、解決することを目指します。

2. これまでの取り組み

日本のYMCAおよびワイズメンズクラブは、2011年から2016年にかけて全国のYMCAは福島のこどもたちの心のケアを目的としたリフレッシュキャンプやシンポジウムを226回開催しました。これらのプログラムには、合計で10,493名の参加がありました。

年	プログラム数	参加者数
2011	31	1229
2012	65	2712
2013	39	1946
2014	39	1833
2015	41	2082
2016	11	691

また、下記の団体と協働して支援活動を展開してきました。

NPO 法人みみをすますプロジェクト 日本基督教団筑波学園教会 日本基督教団原町教会
児童養護施設 堀川愛生園 福島県南相馬市小高区高校生グループ「LLO(LiveLineOdaka)」
認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク つくば市社会福祉協議会
福島移住女性支援ネットワーク(EIWAN) 郷ヶ丘幼稚園(いわき市)
平幼稚園(いわき市) 守りたい・子ども未来プロジェクト実行委員会
神奈川県ユニセフ協会 会津放射能情報センター 「3a!」郡山
郡山ザベリオ学園 日本基督教団放射能問題対策支援室・いずみ
キッズケアパークふくしま NPO 法人「被災支援ネットワーク・東北ヘルプ」

3. ふくしまYMCAの具体的な活動

ふくしまYMCAは、イエス・キリストの生き方と愛と奉仕の精神に基づいて

「青少年の健全な育成と地域社会の課題の解決」を目指し、

- (1) 「若者」が中心となり企画・運営する活動を目指します。
- (2) 「権利としての日本語」を中心とした支援活動を展開します。
- (3) 「国際全人教育」を推進します。

(1)について

活動の主体は、企画運営の全般にわたり、ユース（青少年）が担います。そして、それをシニアのボランティアがサポートします。従って、通常のプログラムではなく、イベント型の活動が中心になります。具体的には以下のプログラムが考えられます。

① 福島スタディーツアーの開催

すでに東日本地区YMCAの研修としてこれまで4回開催してきた実績があります。また、この他に独自に開催してきたYMCAがいくつかあります。これらの経験をベースに地元の大学生と近隣のYMCA(とちぎ、茨城、仙台)のユースによるプロジェクトチームを結成し、最終的には春、夏、冬の計3回福島スタディーツアーを開催します。これによる益金をその後の活動の資金に充てていきます。

② 「国際青年環境セミナー（仮称）」の開催

2030年3月に、広島YMCAの「国際青少年平和セミナー」を参考として、「国際青少年環境セミナー」を開催します。世界各地のYMCAと関係するユースを福島に集め、開催します。2030年以降については、毎年開催を目指します。スタディーツアーと同様にこのイベントによる益金をその後の活動の原資に充てていきます。

(2)について

全国・全世界のYMCA・ワイズメンズクラブのネットワークを活用し、地元で支援を展開しているEIWANふくしま教室と協働して、ふくしまYMCAは「権利としての日本語」を中心とした全ての人への支援を展開します。

(3)について

YMCAの教育思想である「知的・身体的・社会的・精神的（霊的）」という四つの価値を総称した「Four-Fold Program」を、日本のYMCAは「全人教育」と訳し、ワイズメンズクラブと共に、その実践に努めてきました。この伝統を活かし、福島市で支援を展開しているNPO法人「キッズケアパークふくしま」をはじめとした地域の諸団体と協働して、「国際全人教育」を目指します。

4. 今後の具体的な計画について

まずは「ふくしまYMCA」設立準備委員会を設置し、中期5ヶ年計画を立てて行きます。現在のイメージとして、今後3か年については、以下のスケジュールが考えられます。

2025年度（2025年7月～2026年6月）

① ガバナンス

- ☒ 設立準備委員会の発足
- ☐ 設立準備委員会主催による「設立のための交流会」を開催
- ☐ 2035年のビジョンの共有
- ☐ 会員の募集（年会費3,000円）100名を目指す。
- ☐ 会則を作成する。
- ☐ 日本YMCA同盟加盟退除・組織検討委員会に必要資料を提出する。
- ☐ ふくしまYMCAを設立し、日本YMCA同盟に加盟する。
- ☐ 2035年のビジョンと中期5年計画を定める。

② プログラム

- ☐ ユースを対象とした福島県の諸団体と共同しワークショップを開催する。
- ☐ 第1回福島スタディーツアーを開催する。

2026年度（2026年7月～2027年6月）

① ガバナンス

- ☐ ふくしまYMCAをサポートする「ふくしまワイズメンズクラブ」をチャーターする。
- ☐ 法人格（認定NPO法人）を取得する。

② プログラム

- ☐ ワークショップを年3回開催する。
- ☐ 第2回、第3回福島スタディーツアーを開催する。

2027年度（2027年7月～2028年6月）

① プログラム

- ☐ ワークショップを年3回開催する。
- ☐ 第2回、第3回福島スタディーツアーを開催する。
- ☐ 2027年3月、全国のYMCA、アジアのYMCAからユースを福島に集め「国際青年環境セミナー（仮称）」を福島で開催する。
- ☐ 福島の諸団体との協働する中でスタディーツアー以外のプログラムの開発、調査を進める。

以 上

ふくしまYMCA設立準備委員会

委員長 大島博幸（日本バプテスト連盟主のあしあとキリスト教会牧師）

委員 伊藤信彦、榎本博、大久保知宏、加藤雄一、川上直哉、澤田和美、塩澤達俊、清水弘一、濱塚有史、三田庸平、山下真、山田公平（以上、50音順）

資料：YMCA について

YMCAは1844年、産業革命下のイギリス・ロンドンで、青少年の心豊かな成長を願って創られました。今では120の国と地域に拡がり、約6500万人が活動する世界最大規模の非営利団体となっています。

日本では1880年（明治13年）に東京で設立され、現在は34の「都市YMCA」と35の「学生YMCA」で、約14万人が活動しています。「みつかる。つながる。よくなる。いく。」をブランドスローガンとして、職業教育・専門学校、語学、ウェルネス・健康教育、キャンプ、保育、子育て支援、国際活動など、幅広く事業展開しています。

YMCA活動を支援する後援団体として「ワイズメンズクラブ国際協会」があります。ワイズメンズクラブは1922年に Paul William Alexander 氏によって米国オハイオ州で誕生して以来、世界各国で数々の奉仕活動を展開してきました。日本では1932年6月に日本区が設立され、1997年に、日本区は東日本区と西日本区の2つの区となりそれぞれにワイズメン活動を行っています。現在、東日本区では約50クラブ・約400人、西日本区では約80クラブ・約1,400名が、世界66か国・1,500クラブ・25,000名の会員と連帯し、様々な活動を展開しています。

今回、構想される「ふくしまYMCA」について、特に関係する団体は以下の通りです。

公益財団法人 日本YMCA同盟	https://www.ymca-japan.org/
認定NPO法人 盛岡YMCA	https://www.moriokaymca.org/
公益財団法人 仙台YMCA	https://sendai-ymca.org/
公益財団法人 とちぎYMCA	https://www.tochigiymca.org/
認定NPO法人 茨城YMCA	https://www.ibarakiyymca.org/
一般社団法人 ワイズメンズクラブ国際協会東日本区	https://ys-east.or.jp/

日本のYMCAには「基本原則」が定められています。下記の通りです。

日本 YMCA 基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし、痛みを分かち合う社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

（1996年採択）

世界のYMCAは現在、以下の目標を共有して活動を展開しています。

世界 YMCA Vision2030

1. コミュニティー ウェルビーイング

ポストコロナの時代にすべての人が、個人と集団のウェルビーイングを大切にしながら精神、知性、身体のパランスの取れた成長ができることを目指す。

2. やりがいのある仕事と雇用環境の創造

すべての若者が価値のある有意義な仕事に従事し持続可能な生活を築けるよう、公正かつ公平な教育、雇用、トレーニングの機会を創出し提供していく。

3. 持続可能な地球のために

気候変動に対する若者の高い危機意識と積極的な発言から、若者主導による持続可能な地球のための解決策を推進し、気候変動に取り組む運動体になることを目指す。

4. 公正な世界の実現のために

正義、平和、公正を求め、すべての人の人権を守ろうと努める若者やコミュニティと共に歩む。組織的な差別、不公平、不正などあらゆる種類の人種差別的課題においてグローバルな発信者となることを目指す。